

質問・意見に対する回答

議題	質問・意見内容	質問者	回答・結果	回答者
1 (1) 令和3・4年度のさいたま市博物館協議会委員の委嘱について	15名に委嘱状を交付しました。	—	新美和子委員、江里口友子委員、小宮るり子委員、杉山正司委員、鈴木樹子委員、中村大介委員、野田和美委員、橋本正晴委員、初音みね子委員、広田由子委員、牧野麗委員、宮瀧交二委員、丸井章弘委員、鈴木和博委員、清水俊彦委員	—
1 (2) 委員長及び副委員長の互選について	江里口友子委員を委員長、新美和子委員を副委員長に、とする事務局案について、各委員に賛否を求めました。 質問・意見はありませんでした。	—	委員長（江里口友子委員） 承認 15人 不承認 0人 副委員長（新美和子委員） 承認 15人 不承認 0人 以上の結果、委員長及び副委員長ともに承認されました。	博物館長
2 (1) 令和2年度事業報告について	コロナ禍の状況で、インターネットを活用した展示や講座、解説等の情報発信など、さまざまな工夫を凝らして博物館活動をしていたこと、市民の参加が可能になるや、すぐに対応していたことが、よくわかりました。前例もなく、先が読めず、何をすることも大変な年でありましたが、学芸員、職員の皆様の努力があつての成果だと思えます。お疲れ様でした。 今年度の活動も期待しています。	江里口委員長	新型コロナウイルス感染症が流行し、外出抑制を余儀なくされる中であつて、自宅にいながら気軽に学習したり、工作に取り組んだりすることができる、様々なWebコンテンツや動画コンテンツを制作し、公開しました。  委員の皆様から頂戴したご意見を踏まえながら、今後も、新たなコンテンツを増やしていくなど、博物館からの情報発信を切れ目なく行ってまいります。	
	コロナ禍で特に必要となったツイッターやホームページでの発信、YouTubeの活用は、コロナ後もとても有効なツールになると思います。今後も期待しています。	新副委員長		
	コロナ禍の緊急事態宣言下にあつて、博物館運営において休館や事業の中止を余儀なくされており、職員の皆さんの苦悩が察せられます。その中でH	杉山委員		

質問・意見に対する回答

	<p>Pや Web 解説などインターネットを活用した配信を積極的に行い、博物館の魅力を発信しており努力がよく表れた活動報告であり承認します。</p> <p>いずれの館も教育普及活動の積極的活動は、博物館利用者及び応援者を増やす糧となり評価します。</p>			
	<p>楽しそうな講座が多く、興味深く拝見しました。新型コロナウイルス感染症流行に伴い多くの講座が中止となってしまったのは残念ですが、発信手段等検討しながら市民の学びにつなげていくような活動の継続をお願いできましたら幸いです。</p>	<p>広田委員</p>		
	<p>コロナ禍のもとほとんどの開催が中止になったのはやむを得なく、また少ないながらも開催した講座でコロナ感染者が出なかったのは博物館の感染予防策が功を奏したものと安堵しました。このような身動きが取れない状況下での博物館の役割はインターネット上での動画発信、巡回展や出張講座をどんどん増やしていただき博物館への関心の灯を消さないことかと思っています。</p>	<p>丸井委員</p>		
	<p>コロナ禍で制約がある中、講座等の中止はやむを得ないと思います。これを機に、史料等のデジタル化やデジタル発信を推進できればと思います。</p>	<p>鈴木和博委員</p>		
	<p>博物館の講座は日本古来の歳時記に合わせた一年間の生活体験講座が魅力と思っています。不慮の出来事でたくさんの講座が中止となり残念でしたが次の機会があることを楽しみにしています。</p>	<p>小宮委員</p>	<p>各館で実施する講座につきましては、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、定員を従来の半分としたり、実施時間を短縮するなど、感染症対策を徹底しながら、できる限り行っていきたいと考えております。</p>	
	<p>感染症の影響で、中止の事業が多くなったことは、残念でした。</p>	<p>初音委員</p>		

質問・意見に対する回答

	<p>多くの充実した事業計画を立案したにも関わらず、緊急事態宣言のため中止せざるを得なかった事は非常に残念に思います。しかし出張講座は中止が2件で大方の予定が実施され、多数の参加者があったことは喜ばしいことです。</p> <p>また、インターネットでの講座、ホームページや Twitter での配信が多く見られる。家での生活を余儀なくせざるをない現状に合った事業が多くみられたことは高く評価できます。</p> <p>計画した事業が実施されず残念な反面、調査研究、資料整理、収蔵庫整理、座等使用物品の作成・整理等、普段あまり手が回らないことに時間を割くことが出来たのではと思います。今後の博物館活動に有意義な充実した期間になったのではと推測しています。</p>	<p>鈴木樹子委員</p>	<p>出張講座につきましては、多くの会場で感染症対策を徹底し、定員を絞るなどして実施することができました。また、ご指摘のとおり、主催講座の多くが中止となった反面、その準備から実施に費やす時間を、特別展や企画展等の展示事業に関わる調査研究や資料の整理に時間を割り当てることができ、その成果を、展示に反映させることができたと考えております。</p>	
	<p>コロナ禍の状況での運営であり、来館者の減少・事業の中止はやむを得ない結果と思います。そのような中、Web活用した動画配信や講座開設などを実施されたと知りました。制作にはご苦勞も多かったと思います。お疲れ様でした。</p> <p>本年度は学校でのタブレット利用が本格化しましたので、学校に対し積極的にPRをして授業や自宅学習に活用していただけるよう期待します。</p>	<p>橋本委員</p>	<p>ご指摘のとおり、さいたま市の学校でのタブレット利用が本格化しております。将来的には児童・生徒が、博物館のWebサイトから興味や関心を持ったコンテンツをとおして学習に取り組んでいただけるよう、今後も授業その他の学習に活用しやすいコンテンツの充実に向けて、検討してまいります。</p>	
	<p>コロナ下での大変なご苦勞、ご工夫が伝わってきます。試行錯誤の一年間、終わりがまだ見えませんが頑張ってくださいです。応援しています。</p> <p>個人的な希望といたしましては、お子様やご家族向けの講座や教育普及事業の充実と同じように、高校生や大学</p>	<p>野田委員</p>	<p>博物館の利用者層の中で、高校生・大学生の利用が、他の年代に比べ相対的に少ないことは認識しており、その年代の来館を増やす方策を立てることが課題となっています。これらの世代に対する魅力ある事業や情報発信を工夫して行っていき</p>	

質問・意見に対する回答

	<p>生、仕事をしているような若い世代がリピートしたくなるような、展示や講座、インターネットを通じての配信が増えるとうれしいです。</p>		<p>たいと考えております。</p>	
	<p>コロナ禍で入館者も減り、せっかくの講座も中止になり、残念なことと思います。 事業への参加数を見たところ古文書講座や慶応義塾大学植物園の見学など大人を対象とした講座に関心があるように思います。大人を対象とした企画を増やしてはと思いました。</p>	<p>牧野委員</p>	<p>博物館の利用者層の中で最も多く、かつ郷土の歴史・民俗等に関心が高いのは60歳代以上の世代です。この層を対象にした講座は、従来から様々な内容を実施しているところですが、アンケートでニーズを捉えながら、新しい取組について検討してまいります。</p>	
	<p>博物館は、言うまでもなく、モノ（実物資料）を用いた社会教育機関である。その博物館における講座や教育普及事業が、果たしてこうした本来の使命の下に適切に行われているのか、確認する必要がある。何となく同じワークショップをただ繰り返してはいないだろうか。例えば、さいたま市立博物館では、「まが玉づくり」や「火おこし器づくり」を実施しているが、いきなり作業に取りかかっているだろうか？ やはり、①勾玉は何時から登場するのか、そして②この独特な形状は何を意味するのか、ひいては、③日本における各時代ごとの装身具の歴史等をきちんと学んだ上で、はじめて「まが玉づくり」の作業に入るべきであり、「火おこし器づくり」に際しても、人類が火を使用することによって何がどう変わったのか（例えば肉などの食物を焼いて食べることにより、殺菌効果が高まり疾病を回避出来るようになったことなど）、また、①きりもみ式→②まいぎり式→③弓き</p>	<p>宮瀧委員</p>	<p>「まが玉づくり」、「火おこし器づくり」は、いずれも小学校3年生から6年生の児童を対象に行っています。4学年にわたる年齢層の児童が一緒になって行う講座ということもあり、工作に入る前の説明は、最も学年が低い小学校3年生の1学期までの学習発達段階の児童が理解できるように行っているところです。 「まが玉づくり」では、参加者に常設展示室に展示している勾玉の実物資料を見てもらい、市内の古墳から出土したもので、埋葬された当時のこの地域の有力者の装身具であったこと、なぜこのような形状となっているかについては諸説があることを口頭で説明しております。 また、「火おこし器づくり」では、人間が自然現象から火の威力を知ったこと、その後暖房・炊事・照明等、様々な用途に火を使用するようになったこと、まいぎり式以外にきりもみ式の形態があったこと、これら</p>	

質問・意見に対する回答

	<p>り式→④火打ち石→⑤マッチ→⑥オイルライターといった発火方法の発展等を学んだ上で、はじめて「火おこし器づくり」を行い、先人の苦労や新たな発火方法を開発する必要性が生じたことなどを体験から学ぶことが重要です。毎年毎年、無条件に同じワークショップをただ繰り返すようなことだけは避けなければならない、ただ単に「工作」遊びをしているようでは、博物館の事業として大いに問題があります。ぜひ、この機会に改めてこうした問題を検証し、博物館が本来行うべき講座や教育普及事業を再検討していただければ幸いです。</p>		<p>の道具を使いながら工夫して生活していたと思われること等を口頭で説明しております。</p> <p>このように、ただ工作だけを行うだけにならないよう、実物資料を見せ、小学校3年生の児童で理解できる範囲の内容で、これらの歴史についても説明をしているところです。説明内容については、今後も更に工夫してまいりたいと考えております。</p>
2 (2) 市立博物館企画展について	<p>昨年度「さいたまの JAPAN BLUE」関連講座で中止になってしまった「トートバックを柿渋で染める」のような、体験講座を少しでも取り入れられないでしょうか。コロナの感染状況によっては、参加人数を絞る等、人数が少なくなったり、困難が伴うかもしれませんが、特に子どもたちには、体験を通し、より記憶に残るのではないかと思います。</p>	江里口委員長	<p>ご指摘を受けて、「トートバックを柿渋で染める」の体験講座について、企画展の関連講座の一つとして実施できるか、今後検討いたします。</p>
	<p>柿渋は、少しは知っている世代にも、全く知らない世代にも興味を持っていただけるテーマだと思います。楽しみにしています。</p>	新委員	<p>市内における「柿渋」生産は、昭和50年代を最後に見られなくなっており、「赤山渋」という名称も含め、どのようなものなのか知らない世代の方が多くなっていると考えております。収集資料を中心として、展示内容も、様々な年代の来館者に理解していただきやすい形にまとめることができるように、進めてまいります。</p>
	<p>7、8年前にテレビ番組を見て、実際に渋柿で柿渋を作り、2年間寝かせて、塗ってみました。ホームセンターで買った柿渋とはひと味違う色合いでした。昔はさいたま市域でも赤山渋として出荷までしていた事は、初めて知りました。企画展楽しみにしております。</p>	小宮委員	

質問・意見に対する回答

	<p>藍のあとに柿渋というのは面白いと思います。感染症の流行が落ち着き、体験コーナーなども充実できれば、いい企画になると思います。</p>	<p>中村委員</p>		
	<p>現在の赤山渋の現在らしい活用例、未来への展望や活路なども知りたいです。今だから、化学塗料ではなく自然由来の塗料。とても興味があります。</p>	<p>野田委員</p>		
	<p>大変興味があります。資料の収集、講座の準備とご苦労も多いと思います。が楽しみにしております。</p>	<p>橋本委員</p>		
	<p>身近に使われているのに知らないことが多い柿渋について、知ることができのを楽しみにしております。</p>	<p>初音委員</p>		
	<p>赤山渋については、記載された内容や展示予定資料を見ると行きたくなる内容でした。少しでも多くの市民の方に見ていただくのが良いのですがコロナの心配もまだ続くと思われまますので配慮いただきながら広報をお願いしたいと存じます。</p>	<p>丸井委員</p>		
	<p>柿渋についてはあまり知られていないので、よい企画だと思います。</p>	<p>鈴木和博委員</p>		
	<p>昭和の中頃まで畑の周りで柿渋用の柿の木がみられました。開発で無くなった地域の文化を取り上げていて、良い企画だと思います。</p>	<p>牧野委員</p>		
	<p>「赤山渋」は、地域の名産でありながら近年は衰退し、地元での認知度も低くなっているいるのでタイムリーな展示の企画として評価します。県立歴史と民俗の博物館では、県指定文化財の「赤山渋生産用具及び渋小屋」を所有しており、9月から年末まで民俗展示室にて特集展示を開催するので、関連展示とはなります。ただ、両館はMVOで連携をとっていますが、同時</p>	<p>杉山委員</p>	<p>「赤山渋」については、当館でも展示可能な資料を所蔵しておりますが、展示テーマとして、これまで取り上げたことがありませんでしたので、今回、初めてのまとまった展示となります。また、ご指摘をいただきました近接する施設との連携については、今後、相互で事業に関する情報共有を図るなど、連携強化に努めてまいります。</p>	

質問・意見に対する回答

	<p>期に開催できれば広報面や集客面で効果があったはずですが。今後は、事業面でも相互連携強化を図り、事業を進めていくべきだと考えます。</p>			
	<p>柿渋に関する第34回企画展は非常に興味ある題材を取り上げていると思います。国立国会図書館、浦和博物館等の資料の展示に加え、製造工程が分かる会田家文書や市立博物館所蔵の柿渋生産道具が展示資料として有効に利用されていると思います。</p> <p>会期が来年3月から5月となっていますが、柿が実る季節は“秋”。その季節での展示であったら、来館者が‘柿・柿渋’をもっと身近に感じられるのではと思いました。</p>	<p>鈴木樹子委員</p>	<p>博物館の年間展示スケジュール上、季節にふさわしい展示をその時期に実施することが難しい場合も多くございます。ご指摘をふまえ、展示テーマについて、可能な限り季節性も考慮しながら、検討してまいります。</p>	
	<p>博物館に大切に収蔵されている古文書等があるからこそ、このような企画展ができるのだと感じました。</p> <p>素朴な疑問なのですが、市の学芸員が「〇〇について考察したい」と思って古文書等を収集したり、その方面の専門家と協力したりすることは、よくあるのでしょうか。</p> <p>最近読んだ本に、研究等で収集したものを博物館で登録することで第三者からの評価が可能となり、ひいてはその研究の客観性を担保することになるとあり、博物館の重要性に改めて気づきました。</p>	<p>広田委員</p>	<p>特別展や企画展等のテーマに関連し、他の資料所蔵者のところに向向いて調査を行う際、展示する必要があると認められる資料の撮影を行うことや、借用できるか交渉を行うことなどは、多くの場面でございます。</p> <p>また、そのテーマに関して造詣の深い方に、関連講座の講師や展示図録への寄稿を依頼することも行っております。</p>	
	<p>実施にかかる予算も少ない中、いろいろと工夫された企画展が開催されており、評価します。問題は、その内容がどのように記録化され、継承されているかです。印刷による図録を刊行することが出来ない企画展であっても、会場での展示資料一覧の作成・配付</p>	<p>宮瀧委員</p>	<p>ご指摘のとおり、企画展では展示図録の刊行を行っておりません。これに代えて、会場で展示資料一覧や展示資料解説を見学者に無償配布しております。</p> <p>また、年報にも、展示の概要と構成について記載しております。</p>	

質問・意見に対する回答

	や、紀要・年報等への展示資料一覧の掲載等は不可欠ですが、実施されているのでしょうか。			
3 (1) さいたま市立博物館事業推進指針について	現在、「(仮称) さいたま市博物館事業推進指針」を作成中であり、第2回協議会でご覧いただけるよう準備していることをお知らせしました。	—	質問・意見はありませんでした。	—